

講義名	中国語 A【GSP生用】			授業形態	
担当教員	蘭 梅	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング	

主題と概要

当授業はグローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）学生を対象とした「中国語A」です。「読む・書く・話す・聞く」の4技能をバランスよく学んで、中国語の基礎を身につけることを目的とします。毎週、授業では着実に中国語を身につけるためのトレーニングをたくさん行います。また、GSP学生の皆さんには中国語検定4級合格を目指すという大きな目標もあるので、ややハードな授業になることが予想されますが、諦めず取り組んでください。
授業は「中国語B」（グローバル）と同様の教材を用いてリレー形式で進めていきます。「中国語A」、「中国語B」、どちらかでも1回欠席をしましてしまうと、次回以降の学習に支障をきたす恐れがありますので十分注意してください。

到達目標

中国語検定準4～4級に合格することです。
4技能に関する到達目標
聞く：平易な日常会話を聞き、内容を理解できるようになる。
話す：短文の質問と受け答えができるようになる。
読む：200字以内の平易な内容の中国語を理解することができるようになる。
書く：基本文型を応用して、簡単な自己紹介文を書くことができるようになる。
なお、新型コロナウイルス感染症の感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

提出課題

毎回の授業時に、学習内容の理解状況を確認するため、トレーニング用のプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行います。また、毎週宿題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出した課題については、解答を行った後、受講者に自身の結果について確認させます。最後に、受講者に共通するポイントについて、重点的に復習をします。

評価の基準

本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。
具体的な割合：
・平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）30％
・中間テスト30％
・期末テスト40％
詳細については初回の講義の際に、教室で説明します。

履修にあたっての注意・助言他

外国語の授業は実践的なものであるため、声を出すことをいとわず、活発な取り組みを期待します。授業中の積極的な態度は大いに評価します。逆に次のような受講者は出席とはみなしません。
教科書を持って来ない者
授業中の居眠り、携帯電話を操作している者など
また、GSPクラスでは宿題の提出状況も評価の対象となりますので注意してください。
新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。

教科書

・発音重視！中国語初級マスター22.	阿部慎太郎・紅粉芳恵・蘭梅	金星堂	2500		
--------------------	---------------	-----	------	--	--

参考図書

なし。

その他

授業計画

1. 発音編 1 日目
2. 発音編 3 日目
3. 第1課「自己紹介をする」発音トレーニング・ポイント
4. 第2課「行先を聞く」発音トレーニング・ポイント
5. 第3課「連絡をする」発音トレーニング・ポイント
6. 第4課「家族構成を聞く」発音トレーニング・ポイント
7. 第5課「スケジュールを聞く」発音トレーニング・ポイント
8. 中間まとめ・中検準4級模擬試験
9. 第6課「待ち合わせをする」発音トレーニング・ポイント
10. 第7課「機内食を頼む」発音トレーニング・ポイント
11. 第8課「SNSで連絡を取る」発音トレーニング・ポイント
12. 第9課「湯屋に入る」発音トレーニング・ポイント
13. 第10課「待ち時間を伝える」発音トレーニング・ポイント
14. 第11課「趣味の話をする」発音トレーニング・ポイント
15. 総まとめ/中検準4級模擬試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業後、講義した内容についての復習課題と予習課題を配布しますので、目安として毎日の学習時間は一日1時間以上が必要となります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」読解・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本講義では基本的にICT活用をし、教室に備えているプロジェクターを使用し、音声はiPadとコードレススピーカーを使用します。また、Quizlet、Kahoot!もプロジェクターを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考

この科目は「中国語B（グローバル）」とリレー形式で行うため、学習者の習得状況により授業進度の調整を行うことがあります。